

# 日光道中の宿場町・草加宿を実感できる地域



## ●浅古家の地蔵堂

市役所の脇にある地蔵堂は、江戸期の中ごろ、大和屋浅古半兵衛が建てたといわれています。草加の宿場の南界を示すもので、邪神を防ぐ境神でもあったといわれています。

## ●草加宿

草加宿が千住・越谷間の中間宿として公認されたのは寛永7年(1630)。日光道中第2の宿駅として指定されました。

## ●草加せんべい

草加市を代表する名産といえは、まず草加せんべいを思い浮かべるでしょう。俗説では、草加松原で茶店を出していた「おせんさん」が売り出したために、「草加せんべい」と呼ばれるようになったといわれています。草加周辺は、良質な米が獲れたため、せんべいの製造がさかんになったのでしょうか。

## ●東福寺

「松寿山不動院東福寺」と称する、真言宗智山派のお寺で、僧賢宥が開山したといわれています。大川図書や、江戸落語中興の祖である石井宗叔の供養墓石があります。また、山門・鐘楼・本堂内外陣境彫刻欄間は市の指定文化財です。

## ●歴史民俗資料館

丸太舟や土器などの考古資料、板碑や古文書などの歴史資料、農具やせんべいの製造具などの民俗資料約3,000点近い資料が収められています。

## ●草加松原芭蕉翁

市民グループ「芭蕉像をつくる会」が企画し、市内在住の彫刻家妻倉忠彦氏が製作しました。顔を左に向け江戸を見返り、これからの長旅に思いをめぐらせている旅立ちの姿を表しています。

## ●明治天皇草加行在所記念碑

明治天皇が明治9年の奥羽巡幸と明治14年の東北・北海道行幸の時に、大川家を行在所として宿泊された時の記念碑が残されています。

## ●蔵造りの家

市役所の隣に建っている浅古家は、明治30年に建造されました。草加の宿場の面影を今に伝える町屋建築を基本とした土蔵造り風に仕上げられています。また、藤城家の店舗や内蔵・外蔵、須田家の外蔵、久野家の神明庫なども、草加宿の面影を伝えています。

